

第5期科学技術基本計画

世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成

- 我が国の医療技術や産業競争力を生かし、例えば、感染症対策などの分野で、諸外国との連携による地球規模の課題への取組や、我が国の優れた力を生かした国際貢献といった主導的取組を進めていく。(第3章(1)②)



地球規模の気候変動への対応

- 地球規模課題の一つである地球温暖化の主な要因は、人為的な温室効果ガスの排出増加とされ、地球温暖化に伴う気候変動が今後更に経済・社会等に重大な影響を与えるおそれがある。このため、地球規模での温室効果ガスの大幅な削減を目指すとともに、我が国のみならず世界における気候変動の影響への適応に貢献する。(第3章(3)①)



国家戦略上重要なフロンティアの開拓

- 「海洋立国」として、その立場にふさわしい科学技術イノベーションの成果を上げるため、着実に取り組んでいくことが求められる。(海洋に関する科学技術としては、氷海域、深海部、海底下を含む海洋の調査・観測技術、海洋資源等の海洋の持続可能な開発・利用等に資する技術等。)(第3章(4))



次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成

- 我が国が科学技術イノベーション力を持続的に向上していくためには、初等中等教育及び大学教育を通じて、次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成を図り、その能力・才能の伸長を促すとともに、理数好きの児童生徒の拡大を図ることが重要である。(第4章(1)①iv)



女性の活躍促進

- 国は、女性が、研究等とライフイベントとの両立を図るための支援や環境整備を行うとともに、ロールモデルや好事例を幅広く周知し、情報共有を図る。さらに、組織の意思決定を行うマネジメント層やPI等への女性リーダーの育成と登用に積極的に取り組む大学及び公的研究機関等の取組を促進する。これらを通じて、組織のマネジメント層を中心とした意識改革等を図る。(第4章(1)②)



「つくばコミュニケ」への対応状況

グローバルヘルス

- 「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、顧みられない熱帯病等(NTDs/PRDs)の作業部会(10/19)へ出席し、日本の科学技術イノベーション政策や取組などについて発信。
- 作業部会では、顧みられない熱帯病等(NTDs/PRDs)に関する研究開発の促進に向け、政策決定や共同研究活動の基盤となるよう、G7各国間でNTDs/PRDsに係る研究開発情報のマッピングの実施に向けた意見交換を実施。今後も継続して検討し、2017年にイタリアで開催されるG7につなげる。
- グローバルヘルスの推進について、G7伊勢志摩サミット首脳宣言関連文書へインプット。
(国内的に加速すべき課題)
✓ NTDs/PRDsに関する日本の取組の強化
✓ 医療データの収集、活用の在り方の検討
✓ 脳科学の促進への取組
✓ 医療現場、介護現場におけるロボティクスの活用

クリーンエネルギー

- G7北九州エネルギー大臣会合の議論を受け、クリーンエネルギー分野の研究開発に関する情報を交換するとともに、今後の国際的な研究協力を推進するに当たって、ミッション・イノベーションと連携し、クリーンエネルギーに関する研究開発を推進し情報交換を行うことを検討。
(国内的に加速すべき課題)
✓ エネルギー・環境イノベーション戦略に基づいた研究開発の取組

海洋の未来

- 「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、海洋分野の作業部会(11/29-12/1)へ出席し、日本の科学技術イノベーション政策や取組などについて発信。
- 作業部会では、「つくばコミュニケ」の5つのアクション(観測強化、データの共有推進、各国間の連携等)について、G7各国の専門家や行政官を含む関係者で議論し、フォローアップを12月に取りまとめる予定。
(国内的に加速すべき課題)
✓ アルゴ推進計画に基づく海洋観測の強化
✓ オープンサイエンスによるデータの共有・活用

次世代のグローバルリーダーの人材育成

- 「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、STEM教育プログラムの優良事例の共有に向けて、情報収集等を行うことを予定。
(国内的に加速すべき課題)
✓ イノベーション人材の育成とSTEM教育の展開

科学技術イノベーション分野における女性の参画拡大

- 科学技術分野における女性の参画拡大について、G7伊勢志摩サミット首脳宣言関連文書へインプット。
- 女性の参画拡大の意識を醸成するに当たって、関係省庁等が連携したイベントの実施(World Assembly for Women in Tokyo, Gender Summit等)に向けて協力予定。
(国内的に加速すべき課題)
✓ 科学技術分野における女性研究者、技術者等の育成・登用

国際的な研究ネットワーク構築の強化

- 国は、大学及び公的研究機関等における、高いポテンシャルを有する海外研究機関との組織間ネットワーク構築、国際共同プロジェクトへの参画、国際機関及び海外の大学等の研究機関への研究者派遣、グローバルヤングアカデミーへの参画等を促進するとともに、海外派遣研究者及び在日経験を有する外国人研究者等のネットワーク構築等を推進する。（第4章（1）②ii）

**オープンサイエンスの推進**

- 国は、資金配分機関、大学等の研究機関、研究者等の関係者と連携し、オープンサイエンスの推進体制を構築する。
- 国は、科学研究活動の効率化と生産性の向上を目指し、オープンサイエンスの推進のルールに基づき、適切な国際連携により、研究成果・データを共有するプラットフォームを構築する。（第4章（2）③）

**グローバルなニーズを先取りしたイノベーション創出機会の開拓**

- 国は、グローバルなニーズを先取りする研究開発や新ビジネスの創出に向け、国際連携・協力を念頭に置いた国際機関等との連携による科学技術予測や、長期的な変化を探索する分析体制を横断的に構築し、その成果を社会実装につなげるための情報共有やフォローアップの体制・仕組みを構築する。（第5章（6）①）
- 国は、新興国及び途上国との関係強化のため、科学技術におけるインクルーシブ・イノベーションを実践する地球規模対応の国際的科学技術協力の枠組みを積極的に活用・充実する中で、現地での共同研究を推進するとともに、社会実装に向けた取組や人材育成の観点をより重視したプログラムの設計を検討し、その推進を図る。（第5章（6）②）

**科学技術イノベーション政策の戦略的国際展開**

- 国は、我が国が取り組む経済・社会的課題に対して、大学、公的研究機関、企業等から創出された成果を世界に発信するとともに、これらの分野においてリーダーシップを発揮すべく、国際機関や国際会議の場を活用する。また、二国間、多国間等の国際協力を戦略的に推進するとともに、国際賞、国際学会等も科学技術外交の機会と捉え、我が国の国際的な存在感を高めていく。（第7章（3））

**科学技術イノベーションの推進に向けての女性の参画拡大や次世代の人材育成**

- 国際的な研究ネットワーク構築の強化を推進するに当たり、「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、例えば、グローバルヤングアカデミーへの参画促進については、同会合主催の会議に出席し、「つくばコミュニケ」及び5期計画の概要を紹介。
- グローバルヤングアカデミーより、日本と連携して取り組みたい施策（プログラム）案の提案があったため、関係府省庁等と意見交換し、引き続き検討。

（国内的に加速すべき課題）

- ✓ 国際的人材ネットワークの形成、国際的機関との連携強化

オープンサイエンス

- オープンサイエンスを推進するに当たり、「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、本年11月9日に内閣府においてG7各国の専門家による作業部会（ワーキンググループ）を実施。
- ワーキンググループでは、各国のオープンサイエンスに関する政策や施策、考え方を共有し、今後のアクションを特定する。
- ワーキンググループでの検討結果を、内閣府の「オープンサイエンスの推進に関するフォローアップ検討会」へフィードバックするとともに、国内の推進体制についてさらなる検討を進める。

（国内的に加速すべき課題）

- ✓ オープンサイエンスポリシーの策定、オープンデータの普及と活用
- ✓ データマネジメントプラン等の整備、データ基盤の整備、人材の育成

インクルーシブ・イノベーション

- グローバルなニーズを先取りしたイノベーション創出機会の開拓にあたり、「つくばコミュニケ」のアクションを踏まえ、国内外におけるインクルーシブイノベーションを推進する施策（プログラム）を特定するなど情報収集を行い、G7各国へ照会するとともに、その結果をG7各国・国内関係省庁へ共有予定。

（国内的に加速すべき課題）

- ✓ インクルーシブイノベーションの推進（社会実装）（SATREPS等の拡充）
- ✓ 科学技術と連携した産業化の促進
- ✓ 人材育成

「つくばコミュニケ」総論他

- G7茨城・つくば科学技術大臣会合において、「Society5.0」の考え方について各国と認識が共有され、それを踏まえた「つくばコミュニケ」を世界へ発信。
- カナダ、米国等の二国間科学技術協力合同委員会において、「つくばコミュニケ」のフォローアップ状況や、第5期科学技術基本計画、関係省庁施策やその取り組み状況について発信。
- 第13回「国際科学技術関係大臣会合」（10月）において、「つくばコミュニケ」のフォローアップ状況や、第5期科学技術基本計画（特にSociety5.0）などを出席国へ発信。
- G20科学技術イノベーション大臣会合（11月）における成果文書については、第5期科学技術基本計画や「つくばコミュニケ」のコンセプト等を反映するとともに、会合では「Society5.0」の考え方を発信。

（国内的に加速すべき課題）

- ✓ 「Society5.0」の実行
- ✓ 国際機関、国際会議の活用推進
- ✓ 二国間、多国間の国際協力の推進